達だ。悪辣な野心家共の餌になって堪るものか！

ガス会社の全従業員諸君！　オレ達は常に組合系統の演説がどうの新聞を言ふのではない。労働者として正当な要求に向って闘ふ時、それは全労働者の同一の問題ではないだらうか。今日まで、ともすれば職工諸君の應援を今日まで續けられなかった事と吾々は考へる。然るに何事か！　ガス工組合のダラ幹共は、諸君をダシに使って中村から金を取り、剝へ、オレ達人夫の要求を今ここに蹂躙しやうと云ふのだ。勿論奴等のダラ幹振りは諸君も既に認めてゐる事だ。彼等は賣込みの常習者であるのだ。彼太田の前科は余りにも有名だ。昭和二年の爭議に於ても莫大の金を取ってゐる。奴の專斷はこれのみに止まらない。十八日、本所公会堂に開催されたガス工組合の停年制演説會に対して、オレ達爭議團の代表がこれに臨み、經過を報告して應援をたのんだ時、彼太田は獨斷によって、オレ達の代表を追ひ返へした。そしてオレ達が「職工諸君の意志に対して異れ」と頼めば「そんな事をすれば当然職工全部が應援するから困る」と云ふ時、爭議團を追ひかへし、金職工諸君の意志を踏みにじっておき乍ら、今頃ぬけしゃぬけって、本部や中野の兄弟まで込んでしまったその悪辣さは憎んでも飽き足らない輩である。これはみな奴等と中村とナレ合ひである事は、火を見るよりも明かだ。中村はガス工組合の名譽顧問として常に莫大の金をダラ幹共に出してゐる。諸君！これは決して他人事ではない。これこそ天人共にエルさざるところである。オレ達は断然奴等の正体を暴露してその策動を一蹴した。諸君！諸君は常に吾々の味方である事をオレ達は知ってゐる。幹部の專斷と横暴に対する反抗は、各方面にもり上ってゐる。

ガス会社の全従業員諸君！　オレ達爭議團は二、に、諸君の厳正なる批判を乞ふものである。

労働者を喰物にするダラ幹を排撃！

一九三一・六・二